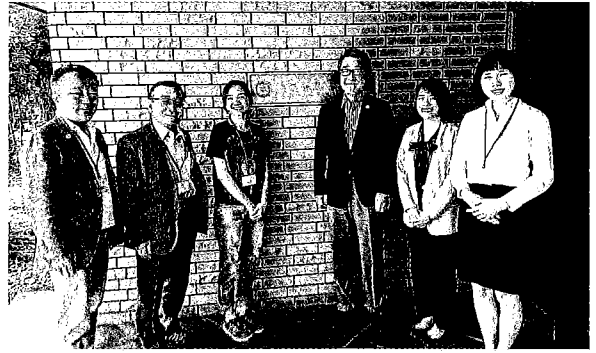


奉仕の理想と 自利利他と黄金律



国際ロータリー第2580地区
2017-18年度ガバナー

吉田 雅俊



9月2日 静岡県にある米山梅吉記念館を米山奨学生と訪問

奉仕の理想 Ideal of Service

欧米人が“Ideal of Service”という言葉から連想する概念と同じ概念を、日本人が「奉仕の理想」という言葉から連想するためには、Serviceの概念をしっかりと理解する必要があると思います。

Serviceの動詞形はserveで、needsを満たそうとすることをServiceといいます。つまり、serveするためには先ずニーズを知ることが必要で、ニーズが満たされなければserveしたことにはならないのです。単に人に水を出すのがServiceではなく、水を欲する人に水を出すのがServiceです。つまり、needsを満たして行こうとする行為をServiceというのです。そしてまた、その人が欲することと、その人にとって本質的に必要なこととは、必ずしも一致するわけではありません。本当に必要なものをserveすることが大切です。

近江商人・商売の心得十訓に【五、無理に売るな、客の好むものも売るな、客の為になるものを売れ】(ガバナー月信9月号に掲載)とありますが、何か共通するものを感じませんか？ 飢えている人に魚を与えるだけでなく、魚の取り方を教えてやらなければ本質的に必要なものをserveしたことになりません。Ideaとは、完成度・達成度において最高である理想的な状態をいいます。従って「奉仕の理想」「Ideal of Service」とはつまり、究極の利他といえるのではないのでしょうか？

自利利他

比叡山を開いた最澄伝教大師の言葉といわれている「自利とは利他をいう」とは、利他を実践すればいつかは巡り巡って自分の利益になるということ

はなく、「利他の実践そのものが自分の幸せなのだ」という教えです。自利利他の真髓「自利とは利他をいふ」「利他を以って自利と為す」に到る。

黄金律

アメリカ発祥のロータリーは、基本的には宗教、人種を超えた人道的な団体ですが、その精神の根底にはキリスト教的戒めに通ずるところがあると思います。

イエスは旧約聖書の教えを二つの戒めに要約しました。

「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」これが第一の戒めです。

「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」これが第二の戒めです。

神への愛と隣人への愛を実践する。換言すると、この二つの愛がキリストの究極の教えではないでしょうか？ またこれが、キリストの教えにおける黄金律であると思います。「黄金律」とは、自分にして欲しい且つ相手にとって最善のことを、相手にすることです。そしてこれはまた、様々な場面でのベストソリューションであり、まさにServiceの真髓であり精神そのものです。

利他こそ超我の奉仕 (Service Above Self) そのものであり、One Profits Most Who Serves Best とは、反対給付を求めたものではなく、最澄伝教大師のいうところの自利利他、つまり、Profits most とは、最高の心の達成感・充足感を得るということではないのでしょうか？